

カトリック豊中教会 広報誌 第24号 復活祭号



コイノニア

2022年6月26日発行

発行者：主任司祭
印刷：広報委員会

〒560-0021 豊中市本町6丁目1番6号
TEL 06-6852-4110 FAX 06-6852-4277
HP: <http://catholictoyonaka.holy.jp/>

コイノニア(κοινωνία)はギリシャ語で聖霊の交わり・(初代)教会の交わりを意味します。

聖霊降臨

主任司祭 アウグスティヌス 野田正弘 神父

6月5日は、教会の誕生日でもある聖霊降臨の主日でした。

先日、以前にいた教会の教会学校のリーダーから「聖霊をどう説明したらいいですか」という電話がありました。一緒に考えましょうと言って、次のように話しました。

「言葉ではなく、まず実感から」

まず聖霊という言葉からスタートするとわからなくなります。言葉からではなく、実感が先です。それは、聖霊という言葉を使った人がまず、どんな体験をしたか、そしてその体験を人に伝えるには、どういう言葉を使ったらいいのかと考えて聖霊という言葉を使ったと思います。だから、まずどんな体験をしたかを考えると少し聖霊がわかるかもしれません。

では具体的にどんな体験をしたのでしょうか。

旧約聖書の預言者エレミヤがエレミヤ書 20 章でこう言っています。

「主の名をもう口にすまい、もうその名によって語るまい、と思っても、主の言葉は、私の心の中、骨の中に閉じ込められて、火のように燃えあがります。押さえつけておこうとして、私は疲れ果てました。」だから、エレミヤは語らずにはいられないのです。またパウロは、ガラテア人への手紙の 2 章でこう言っています。

「生きているのは、もはや私ではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」

このような体験です。

また、大変仲のいい夫婦がいて、例えば夫が先に亡くなってしまった時、奥さんは、ふとした時に、夫が生きていた時よりもっと近くにいるように感じると言われます。

そして別の例をあげると、長いことお母さんの介護をして、とうとう神様の元へ帰ってしまわれた時も、同様なことを言われる人がいます。

イエスさまが亡くなった後、弟子たちやパウロはこのような体験をして、その体験を聖霊という言葉で伝えようとしたのではないのでしょうか。

また人生において重大な局面に立たされた時、祈りの中で耳を澄ますと、神様の声が聞こえてきます。同時に悪魔の声、誘惑の

声も聞こえてくるかもしれません。

その時に、ヨハネの福音書にあるように、弁護者、すなわち聖霊がすべてのことを教えてくださると思います。いわば助言者、アドバイザーとしてこっちを選べばいいですよ。こっちの道が、一見、苦しいように見えるかもしれませんが、長い目で見るとあなたに幸せをもたらす道ですよと、助言してくださる。

その聖霊の声に従い、真の幸せに至ることが出来るように祈りましょう。

